

東京ブランチ新運営委員



前列左から松木、西森、鳥山、後列左から疋田、金田、山田、篠塚、井口

6月5日のブランチ年次総会において8名の運営委員が承認され、互選の結果つぎのように3役および担当を決定しました。これからの2年間、どうぞよろしく願いいたします。

チェアマン	西森典子 043-485-2528
セクレタリ	鳥山豊喜 044-988-7773
t-toriyama659@jcom.home.ne.jp	
トレジャラ	松木道子 042-475-9054
メンバーシップ・セクレタリ	疋田千鶴子 047-467-1922
ビギナーズ・クラス	井口弓子 048-924-9447
インターミディエイト・クラス	山田美代子 03-3696-9180
アドバンスト・クラス	篠塚昌子 029-855-4728
ブランチ・ショップ	金田治子 043-485-8951 ■

Exams Tokyo 2010

4月下旬から5月上旬にかけて行なわれた Exams Tokyo 2010 において、つぎの会員が合格しました。おめでとうございます。より高みをめざしてこれからもいっそうのご精進をつまれますよう願っています。

Part 1 合格者

岩間敏子・佐藤早智子・高折啓子・寺山晶子・富谷佐千子・山本真喜子・吉田ひろみ・吉野文江

Part 2 合格者

荒井慶子・清水豊・疋田千鶴子・松木道子

このイベントを組織運営した合同試験委員会のみなさん、会場確保にご苦労された方々、そして試験当日ボランティアとして参加されたみなさんに深く感謝いたします■

Book 46 講習会

- Day School for Book 46 Dances -

9月19日(日)

10:30-16(開場10:00)

赤羽会館4F

ランチ会員¥1,000 非会員¥1,200

講師 寺久保ヒロ子・トム鳥山・中田多鶴子・

西森典子・松木道子

ピアノ 青山るり・村上美枝子

ふるってご参加ください■

Unit 5 の課題ダンス

- Exams Tokyo 2010 -

資格試験のUnit 5ティーチング試験で受験生に与えられたUnseen 課題ダンスはつぎのとおりです。いままでの経験から考えると、メドレー、4-couple (square 含む)、32小節未満40小節以上のダンスが課題ダンスになったことはないようです。1st couple が踊っているとき、2nd & 3rd couples も同時になにかをやるというモダン・ダンスも指導に時間を要するため、課題ダンスにはなりにくい。Unit 5 受験をめざす人はBook 1からBook 30のトラディショナルを勉強すべきであり、経験を重ねるためにセント・アンドルーズではUnit 5合格までLadies' Step Dancingではなく、2タームともCounty Dancingを受講すべきと考えます。

My Mother's Coming In	J	Book 15
La Flora	J	Book 29
The Fête	S	Book 25
Merry Lads of Ayr	R	Book 1
Dumbarton Drums	R	Book 5
Duke of Hamilton's Reel	S	Book 5
Strathglass House	S	Book 13
Ladies' Fancy	J	Book 13
Adieu Mon Ami	S	Book 24
My Spouse Nancy	R	Lflt 22
The Bramble Bush	J	Book 25■

ランチ賞を受賞する近藤さん



6月5日の年次総会で東京ランチ賞が近藤幸子さんに手渡されました。

東京ランチ・クラス

ビギナーズ・クラス

8月9日(月) 1.30-4.00

以降毎月第2・第4月曜日

千代田区総合体育館5F

講師 篠塚昌子

¥500/クラス

担当 井口弓子 048-924-9447

インターミディエイト・クラス

8月2日(月) 1.30- 講師 境 雅子

千代田区総合体育館5F

9月6日(月) 兼松千奈美

¥500

担当 山田美代子 03-3696-9180

アドバンスト・クラス

8月7日(土) 6.20-8.45

講師 近藤幸子

昌平童夢館4F(秋葉原)

9月4日(土) 寺久保ヒロ子

¥500

担当 篠塚昌子 029-485-8951■

運営委員会報告

4月3日

1. Weekend 2010 のクラスは5人のミュージシャンに演奏してもらうことになった。会費額は¥24,000 とし、4月内申し込みは¥23,000 とする。役割分担、乗車バス時刻を確認した。
2. 会員登録状況は3月末時点で306名。
3. 次期ランチ委員候補を話し合う。新委員5名は内諾を得たが、ほかはすべて拒絶されたため、現委員から3名は留任せざるをえない。
4. 田村美恵子さんに1年間のアドバンスト・クラス会場確保を行なっていただいた。例年のとおりお礼状を送った。
5. Exams は吉澤委員長が体調を崩されたため、五十嵐成子さんに試験委員としての活動を引き受けてもらうことになった。
6. マガジン9号日本語版とランチレター84号は仕上がり段階にある。上旬に同時発送予定。

5月1日

1. Weekend 2010 および総会資料の最終確認を行なった。
2. 次期委員会との引き継ぎ作業は6月13日(日)に大久保地域センターで行なう。
3. Weekend 2010 の講師、MC を決定した。
4. 会員登録は334名。これ以降もだららと申込みが予想されるが、きりがないのでこれをもって締切る。
5. Exams のボランティア・ダンサーは、4月時点では5月5日に不足ありとのことだったが、ひとまず充足可の見込み。

6月13日

1. Weekend 2010 のアンケート結果はおおむね「よかった」との感想。委員会の最大の反省はキーボード準備をホテル側に一任したこと。収支は黒字の見込み。
2. 来年の Weekend 2011 はホテルに先約があり、2011年6月10日-12日となった。
3. Book 46 講習会の参加費額、開始時刻、講師候補5人、ミュージシャン候補3人を決めた。
4. Weekend 2010 終了の翌日に本部から「五十嵐成子さんに功労賞授賞」の知らせあり。11月23日(火・祝)乃木坂のホテルはあ

といいで祝賀ダンス会を行なう。

5. New Year Dance 2011 会場確保のため、赤羽 SCDC に援助要請する。7月1日の抽選日に委員会から1人出席させる。

7月3日

1. Book 46 講習会の講師・ミュージシャン候補に指導・演奏をお願いしたところ、1人に先約ある以外は7人から「了承」の回答あり。指導担当ダンスは8月に決める。
2. 11/23 五十嵐成子さん祝賀ダンス会の会費額・チラシ配布時期・ミュージシャン候補・MC 候補・ホテル側との折衝役など、大筋を決めた。
3. 2010年度下期ランチ・クラスの講師候補選定は上期と同様、委員会で19人の候補をあげ、指導可否を問い合わせる。下期は担当クラスを特定せずに指導可否を問い合わせる。
4. New Year Dance 2011 は 赤羽 SCDC の援助を得て、大変幸運なことに1月10日(月・祝)赤羽会館が確保できた。音楽は2010と同じようにボランティアをつのる(まとめ役候補に引き受け可否をきく)。ダンス・プログラムは10月に決める。
5. 本部の新Book・新CDについていまだ本部から価格回答がない。いままでの経験をもとに見切りで販売価格をきめ、会員から注文をつのることにする。なおBook 46は無料配布されず、ほしい人は有料で購入となる■

クラスで踊ったダンス

ビギナーズ・クラス 岩瀬よし子

4月12日

A Reel for Jeannie	Bk 40
Leap Year	Gr
Galloway House	Gr

4月26日

Nineteenth of December	27
Bonnie Geordie's Wig	MMM

5月10日

The Grassmarket Reel	5/2009
12 Coates Crescent	40
Lady Lucy Ramsay	MMM

Weekend 2010 アンケート結果

6月のWeekend 2010でみなさんからいただいたアンケートの結果はつぎのとおりです。次回Weekendの企画にあたり、大いに参考にさせていただきます。回収率65%。

5月24日	Lady Glasgow	MMM
	EH3 7AF	40
6月14日	Corn Rigs	4
	Jessie's Hornpipe	9
	Inverary	MMM
6月28日	Joie de Vivre	39
	Monymusk	11
	The Sailor	24
<hr/>		
インターミディエイト・クラス		
4月5日	神倉那智子	
	A Capital Jig	5/2009
	Starlight	44
	The Banks of Clyde	MMM
5月3日	渋谷明美	
	Summer Wooing	38
	The Glasgow Highlanders	2
	It's Just for Fun	33
6月7日	掛川純子	
	Joie de Vivre	39
	The Royal Yacht Britannia	43
	My Friend Joe	38
7月5日	三木真理	
	The Montgomeries' Rant	11
	The Luckenbooth Brooch	Dickson
	Neidpath Castle	22

アドバンスト・クラス

5月1日	ジョハン・マクリーン/ 青山るり	
	Argyll's Bowling Green	15
	From Scotia's Shores We're	
	Noo Awa	Lflt
	The Maid of the Mill	21
	Mr Robert H Mackay	38
7月3日	小幡正明	
	The Merry Reapers	Gr
	Kingussie Flower	21
	Round Brackets	Obata
	The Reel of Mey	22
	Up in the Air	20
	The Eight Men of Moidart	3■

	よい (百分比)	普通	よく ない
Class について	68	32	
Teaching について	72	28	
Music について	48	44	8
時間配分について	63	32	5
Social Dancing	75	25	
上記の音楽について	70	30	
Ceilidh Dancing	58	40	2
上記の音楽について	71	29	
Walk Through	57	43	
宿泊施設について	44	51	5
開催時期について	71	27	2
開催場所について	33	53	15
総会との同時開催 参加者はフレンド	50	38	12
リーでしたか	80	20	
総体的なご感想	78	22	

ご意見・感想としては：

総会との同時開催は疑問である。

クラスで私語が多かった。

2泊3日は長い。1泊2日も選択可能にすべき。

キーボードがおそまつだった。

ホテルマンが無愛想だった(3名)。

2時間45分のクラスは長すぎる。2.5時間がよい。

Social Dancing, Ceilidh Dancing とも長すぎる。

場所が遠すぎる(ただし代替場所の推薦は皆無)。

資料代込みの参加費にしてほしい(ただし1/3の人は申し込まなかった)。

クラスでずっとあふれている人がいた(ティーチャーの配慮不足)。

Social Dancing のMC 1人は、2-3人でやったほうがよい。

懇親会のつまみは多すぎた。

(ジョン・ミッチェル)

コース A

境 雅子

Fraser's Favourite	Lflt
Mrs Leeman Dances	Petyt
The Fête	25
Mrs Kondo's Strathspey	Obata
Up & Down the Gallowgate	Drewry

有田典和

Jennifer's Jig	Drewry
Back to the Fireside	38
May Yarker's Strathspey	42
La Ronda	Drewry
The Maxwells Rant Again	Drewry

神倉那智子

Lochiel's Farewell to Tony Szeto	Laidlaw
Barry's Birthday Jig	Skelton
Casting Glances	Wilson

コース B

中田多鶴子

Coats Land	Goldring
The Camp of Pleasure	15
Not I	28
The Scots Bonnet	10
Carry On, Sue	Morris

五十嵐成子

Strathmore	43
The Whiteadder Jig	Johnstone
The Corian Strathspey	43

小杉由美子

Reel on	Goldring
Invercauld's Reel	11
Napier's Index	45

合同クラス 鳥山豊喜

Keppoch's Rant	17
The Maid of the Mill	21
Perthshire Highlanders	17
Niel Gow's Farewell to Whisky	34■

Bratach Bana

ジョン・ドゥルーリ作のたいへんポピュラーなダンスである。初め、説明ではダンシング・カップルは bars 25-28 でプロミナードでセットを横切り、2 pas de basques でサイドラインにターンする踊り方になっていた。これはぎごちない動きであり、ブック出版時に訂正用紙片がついて、セッティングのないダンスになった。つまり、カップルはプロモナードでセットを横切り、スキップ・チェンジでサイドにターンする。

ティーチャー連中は訂正用紙片を失くしたり、無視して bars 27-28 でセットするよう要求していた。ピリング・ブック(ダイヤグラム)も間違えて訂正し、bars 27-28 を右手 1/2 ターンと記載しており、むずかしくはないが、つぎの動きはコーナーとの右手クロスであり、右手 1/2 ターンはやはりぎごちなさを生じる。

Caddam Wood

Caddam Wood はキリミュア (Killiemuir ダンディ北方の町) 郊外に実在する木で、チューンが先に作られ、しばらくして踊りが作られた。

セント・アンドルーズのある晩、ヤンガーホールでバンドがあるリールのトップ・チューンに *Caddam Wood* を演奏し始めた。ミス・ミリガンは直ちにダンスを止めさせ、正しいチューンで演奏しろと指示し、さらに *Caddam Wood* はカントリー・ダンシングには決して用いない「パイプ・マーチ」だからといった。たしかにバグパイプは(兵隊ラップと同じように)五音階であり、そのリールのチューンとしてはふさわしくなかった。翌日、ミス・ミリガンはクラスでパイプ・チューンの使用、モダン・ダンス全般、そしてとくに5カップル・ダンスについて苦々しく思っていると不満をのべた。

であるが、前日の晩のできごとを印象付けるものとして、[ならばパイプ・マーチで5カップルのモダン・ダンスをつくってやれとばかり]その日の午後にこのダンスが作られ、ウォークスルーされたのである。[作者はほかならぬジョン・ミッチェル自身]

The Last of the Lairds

このダンスはヒュー・サーストンがつくったものであるが、RSCDS は彼の了解を得てオリジナルのエンディングをより十分な形に直し、出版した。ヒュー・サーストンは『変更を了承したとはいえ、私としては十分な形とは決して思っていない』と常々口にしていた。彼は『ダンスの最初の部分で全3カップルが動くとするれば、最後の部分では1st カップルのみが踊るといのがトラディショナルなやり方である』と断言していた。いっぽう、最終小節で全3カップルが動くのなら、最初の小節で動くのは1st カップルのみといていた。彼のオリジナル版はトラディショナルなやり方にそっている。しかるに RSCDS 版はそのルールから外れている。ヒュー・サーストンのオリジナル版で踊っているダンサーは RSCDS のやり方よりも彼の踊り方を好んでおり、そのわけは後半部分が踊りやすいためである。その踊り方とは、

bars

17-20 1st カップルは右手で cross over, cast off into 2nd place.

21-24 全3カップル、pas de basque で両手 turn.

25-28 1st カップル、cross down から始まる half figure of eight で 3rd カップルを回る。

29-30 1st カップル、lead up to the top.

31-32 1st カップル、cast off into 2nd place.

RSCDS Book 22 では、bars 17-18 で set、つぎの 10 小節でふつうなら 12 小節分の動きをやることになっている。この不要なセッティングをとり入れたため、踊りの流れが中断し、複雑化をまねいている。このセッティングをなくすことで動きはよりやさしくなり、*Maxwell's Rant* とはまた異なる後半となって、2つの踊りの違いが前半部分だけでないことがはっきりする。

Mairi's Wedding

ジェームズ・コッシュ作のこれまただれもが知っているダンスである。各コーナーとの half reel of four があるけれども、この動きはもともとエルマ・テイラーの作った *The White Rose of Scotland* [1952] で最初に現れたものである。コッシュの説明書では、1st カップルはセットの中心で常に左肩でパスしなければならぬ。

心臓が身体の左側にあるように、このやり方はウェディング・ダンスとして完全に理にかなっている。にもかかわらず、[英国の]ほとんどのカップルは右肩でパスするという間違ったやり方を直そうとしない。ふつうの half reel of four で、その終わりをセットのまん中で右肩パスでやれば、reel の死につながり、たんなるチェイス（あるいはあるダンス作者のいうソーセージ形状）に変質してしまう。

ティーチャー、ダンス作者の何人かが *Mairi's Wedding* を右肩パスで指導しているのは残念である。

Mairi's Divorce (マリの離婚)

このダンスは TAC が公表したもので、*Mairi's Wedding* とほとんど同じであるが、1st カップルはまん中でずっと右肩パスで踊る。できるだけパートナーと離れるように踊ればすじがとおる。

Trip to Bavaria

このダンスの起源については諸説がある。第2次大戦の終結から間もなく、グラスゴー・ブランチのデモ・チームが4カ国共同管理下のドイツを訪れた。この旅行は成功をおさめ、チームは翌年もドイツに招かれた。このダンスは第2回目のバイエルン訪問の際、大衆に披露されたものである。

(‘John W Mitchell analyses some modern dances’ from RSCDS London’s *The Reel No.272*, May to Sep 2010) ■

スコットランド・ツアー2010

(工藤^{よしみち}祐亨)

5月末から11日間の日程で、北は北海道から、西は中国地方まで総勢27名のツアーでした。アイスランドでの噴火にビクビクし、無事にフライトしたのは良かったのですが、BAの国内線ストの影響で、行き、帰り共に大幅に時間がずれ込んでしまいました。最後の朝のカレドニアンホテルでの朝食を食べられなかったのが、唯一の痛恨事です。もともと、一泊後の朝食は豪華に食べていたのですが、あの朝食をもう一度！という願いが強かったのです。

計画に当たって、クレメント篤子さん、旅行社の三上さんをお願いしたことは

1. 2日に1度くらいの割合でダンスの機会を設けて欲しい(5回踊りました)。
2. 可能な限り連泊をして欲しい(実際には2連泊が3度でした)。
3. 蒸気機関車に乗りたい(ハリーポッターの機関車に乗りました)。
4. スカイ島には船で渡りたい(帰りはバス)。
5. カレドニアンホテルに泊まりたい(最後の2連泊)。

と言う具合に、かなり無理をお願いしましたが、すべて聞き届けて貰いました。

印象に残ったことを幾つか

1. 最初のエアアでのダンスでは、当初の情



ハリーポッターの蒸気機関車

報ではリキャップが無い!ということ、大分不安でしたが、全てリキャップして

くれましたし、ウォークスルーも幾つかしてくれました。参加者が“ダンスを楽しむ”という気持ちにあふれていることを感じました。我々にとっても気を遣ってくれました。

パートナーとのターンとなると、実に上手いものと感心しました。

2. スカイ島での深夜の空は白夜に近い状態で、素晴らしい印象でした。素朴で素敵なロケーションのホテルでした。
3. カレドニアンホテルに連泊をして、最後の夜のディナーとダンスはとても嬉しい出来事でした。
4. 現地のプログラムで60ダンス余り踊りましたが、インバランリールが入った踊りが多く取り入れられていました。クイックタイムのプーセットが1つもなかったのは驚きでした。高齢化ですね・・・
5. セントアンドリュースでの自由行動のシーフードレストランで昼食に食べたロブスターは抜群に美味しかったです。



スカイ島北端、ダントラムキャッスルホテル

篤子さんと三上さんには大変お世話になりました。おかげさまで無事にツアーを終えることができ、感謝しております。機会がありましたら、また行きたいものです■

Allie Anderson

アリー・アンダーソンは1896年、シェトランド島で生まれ、1986年90歳でエジンバラ

で亡くなった。生涯を通じ、スコティッシュ・カントリー・ダンシングの熱烈な信奉者だった。彼女はアバディーンの学校に通い、そこで当時有名なダンスの先生であったコズモ・

ミッチェルにダンシングを教わった。17歳のときシェトランドでダンスの指導をはじめたが、これはダンファームリン体育大学に入学する前のことであった。学校教師免状を得ると、彼女はエジンバラのジェームズ・ガレスピー高校で女子高生を対象にずっと教鞭をとった。

彼女は1923年のソサエティ創立メンバーの1人であり、エジンバラ・ブランチ設立(1924年)メンバーの1人でもあった。第1回のサマースクール(1927年)に参加し、長年そのティーチャーをつとめた。彼女は、1927年、個人的に回覧されていたBorder Bookの内容を含め、ジョン・ダシーとの共著でA Complete Guide to Scottish Country Dancingを著わした。アリーは高校の選抜チームを引き連れてエジンバラ音楽フェスティバル(イングリッシュ・カントリー・ダンスとスコティッシュ・フォークダンスの2本立て)に出演した。長年にわたってエジンバラ・ブランチのデモンストレーション・チームを鍛えあげ、1930年、ロンドンでマクラフリン杯を獲得した。マクラフリン杯は今もなおエジンバラ・ブランチ・チェアマンのかたわらにある。

ミス・フローレンス・アダムスと一緒に彼女は2つのダンス、The Duke and Duchess of EdinburghとPrince Charles of Edinburghを作るかたわらで、テレビ番組An Edinburgh FancyとThe Kilt is my Delightの制作にも深くかかわった。1957年、彼女は33年にわたるブランチの指導から引退することを告げた。

1980年にはスコティッシュ・カントリー・ダンシングとスコットランド文化遺産への貢献を認められ、RSCDSとソルタイア・ソサエティ合同の特別功労賞を受賞し、翌年にはソサエティの副会長に就任した。

ダンスMiss Allie Andersonはエジンバラのティーチャー、マイナ・コーソンが作り、チューンは長期間エジンバラ・ブランチとサマースクールで演奏していたスーザン・イングリスが作曲したものである。

(‘Allie Anderson’ from RSCDS London’s The Reel No.271, Feb to Apr 2010) ■

五十嵐成子さんに本部功労賞

長年にわたる日本国内外へのスコティッシュ・カントリー・ダンシング活動が認められ、2010年11月6日のRSCDS年次総会において、五十嵐成子さんに本部功労賞The Scroll of Honourが授与されます。おめでとうございます！

東京ブランチではこれをお祝いして11月23日、祝賀ダンス会をひらきます。大勢の方のお祝いのことばをダンス会で五十嵐さんにお伝えください。

ブランチ特別行事日程

- 11月23日 五十嵐さん祝賀ダンス会(ホテルはあといん)
(火・祝)
- 1月10日 New Year Dance 2011(赤羽会館)
(月・祝)
- 6月10日(金) Weekend 2011(レイクホテル西湖) ■
—12日(日)

本部新出版物の注文受付

サマースクール開催に合わせ、本部はつぎの新しいブック、CDを売り出します。内容不明ですが、早く入手したい人も多く、下記のとおり会員みなさんからのご注文をお受けいたします。

郵便振替 00240-8-63517 東京ブランチ
でお申し込みください(送料込み)。

Book 46	¥1,400
(Book 46は無料配布されません)	
Graded Book 2	¥2,300
Book 12-18 合本	¥2,300
Ladies Step Book 2	¥2,700
CD Book 7	¥2,400
CD Book 17	¥2,400
CD Book 46	¥2,400
CD Graded Book 2	¥3,100
CD Ladies Step Book 2	¥3,100

ショップ担当 金田治子 043-435-8951
締切り 8月16日(月)
お渡し予定 9月末 ■